青パト隊に学生の力

相模原・NPOに参加

県内初・女子参加も　犯罪、事故防止に協力

相模原市で26日、女子大生ら大学生ボランティアが青パトに乗って防犯活動をするNPO「相模原市民交番青パト隊」の出発式があった。毎日午前、午後各1回、地域の防犯指導員と一緒に犯罪と交通事故の防止に努めるという。青パト隊員の高齢化で歓楽街巡回に若者の応援を得た取り組みで、女子の参加は県内初という。

青パト隊に加わったのは警察庁指定防犯ボランティア「神奈川防犯シーガル隊」相模原支部の「グリーンシーガル」。昨年7月、市内にある青山学院大、相模女子大、北里大などの学生17人（男性7人、女性10人）で結成された。事件事故防止活動のほか、県内初のサイバー防犯ボランティアグループとしても、コンピューターへの不正侵入に目を光らせている。

同市南区上鶴間本町のJR横浜線町田駅南口に近い歓楽街・通称「田んぼ」地区では07年4月、拳銃発砲による暴力団員の殺人事件が発生。住宅密集地での事件とあって、県警と相模原南署は暴力団と売春の徹底取り締まりを展開してきた。

地元自治会の要請で同12月、歓楽街の一角に同署臨時警備出張所「安全・安心ステーション」が設けられた。警察官は常駐せず、住民自らが防犯活動をする拠点の「市民交番」ができたことで、住民のサポート隊が発足。10年4月から同NPOが自前の青パトで1日2回の巡回を始めた。

ところが青パト隊の男性17人は主に70代が中心で頻繁な巡回が難しく、県警がグリーンシーガルに青パト隊への参加を要請した。

綿引直也・同署長や防犯指導員ら約50人が参加した出発式で、同NPOの本間俊三理事長は「地域の人たちと学生が一緒になって防犯、事故防止に取り組む」とあいさつ。グリーンシーガルを代表し、相模女子大2年の小俣瞳さん(19)が「地域貢献の機会を得た。学生の力で青パト隊を盛り上げていきたい」と話した。【高橋和夫】

青パトで防犯活動をする学生ボランティア